



たなばたまつり

7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだお話や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度、7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

「なるほど 行事ブック」参照



お 願 い

口田のバス待機場所、真亀園舎周辺は、いずれも住宅地で小学生の通学路です。走行される際は、必ず徐行運転をお願いします。

また、真亀の園庭は、朝夕駐車場としています。必ず、お子さんと手をつないで、園舎までおいでください。駐車できる台数も限られています。園庭で遊んだりして、長時間駐車をしないようご協力をお願いします。



非認知能力と大人の存在

すいこうには、菜園活動が好きな職員で「ガーデニングクラブ」を作り、年長さんと一緒に野菜の苗を植え、水やりなどをして育てています。口田でもたくさんの野菜の収穫ができましたが、真亀もとでも日当たりが良いので、トマト、ピーマン、なすび、とうもろこしなどの夏野菜が大きく育っています。子どもたちは、毎日「花の咲いたところに、なすびの赤ちゃんができています」とかスイカの小さな実を見つけて、「スイカの赤ちゃんも、しましまがある」などたくさんの発見をしています。園舎の裏には、さつまいもも植えてあり、夏から秋にかけての収穫も楽しみです。野菜たちの成長を通して子どもたちがたくさんの発見をし、心を動かしている瞬間を見逃さないよう、関わっていきたくと思っています。

心を動かしている瞬間は、他にもたくさんあります。年少さんのお部屋の観察ケースの中には、青虫がいます。その青虫がさなぎになって、何日もじっとしています。子どもたちは、これからどうなるのか楽しみにしていました。ある日、給食を食べながらTくんが「ちょうちょ、ちょうちょ」と言っています。観察ケースの中で、モンシロチョウが葉っぱの上でじっとしていました。Tくんは、給食もそっちのけで、じっと見入っています。Tくんは、観察ケースの中を見つめ、満足すると給食を食べ始めました。また、2歳児のAくんは、ダンゴムシやアリが大好きです。お部屋を移動するときなどダンゴムシを見つけると、テラスでも園庭でも腹ばいになって、ダンゴムシの背中をちょんちょんとつついて、丸くなる様子に目を輝かせたり、手のひらに乗せて動くとくすぐったい表情をしています。担任は、その様子を笑顔で見守っています。子どもたちは、何かを発見したり、「おもしろい」と感じたりして心が動いた時、側にいる大好きな保育者の顔を見て、「見た？」という表情を見せます。そして、側にいる保育者は、「見たよ。すごいね」という表情で返します。TくんもAくんも言葉はなくても、担任と目と目で思いを伝わっているのです。小さい時からこういった経験を繰り返すことで、子どもは大人への信頼感

を持ち、「もっと遊びたい」「もっと知りたい」という意欲が高まっていくのです。その意欲は、年中さん、年長さんになるに従い、もっと楽しくするために友だちと協力したり、工夫したり、考えたり、時には意見がぶつかってけんかになったりなど、あそびの中で多くの経験を重ねながら育まれていきます。そして、これらの意欲の源となるのが、非認知能力なのだと思います。非認知能力とは、忍耐力、社交性、思いやり、自尊心などを備え、友だちと力を合わせて物事を成し遂げる力のことです。対する認知能力は、読んだり、書いたり、計算したりなど目に見えて測定できる能力のことです。これからは、AIが人に代わって、読んだり書いたりなどを教える時代が来ると言われています。でも、非認知能力は、一人ひとりの興味に合わせたあそびの場を変化させたり、心の動いた瞬間を見逃がさず、その子の思いに心を馳せてあげられる大人の存在がなくては、育まれない能力です。いくら高価な玩具をそろえたり、素晴らしい自然環境を用意したりしても、子どもの心が動いた瞬間に心を添わせる大人の存在がなくては育まれてはいかないのです。

今月は、年長さんが野外活動センターでのお泊り保育に参加します。保護者の方と離れて、仲間だけで過ごす一泊二日。大自然の中で、どんな発見があり、驚きがあり、心を動かす出来事があるのか楽しみです。子どもたちは、今まで少しずつ、すいこうで育んできた非認知能力をフル回転させ、自分のことは自分でやり、時には、友だちと助け合ったりしながら、一泊二日を十分楽しんでくれることと思っています。お泊り保育中に、子どもたちの心が動く瞬間にどれだけ出会えるのか楽しみです。

緊急事態宣言も解除されましたが、今まで通り、感染対策には十分気を付けるとともに、熱中症対策にも取り組んでまいります。できる限り夏のあそびを楽しませてあげたいと思っておりますので、引き続き、検温等のご協力、早寝早起き朝ごはんに心掛け、健康管理をお願いします。

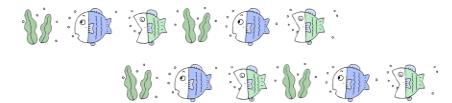
園長 上原玲子

ちっちゃなビオトープ



年少さんのお部屋の前に、トロ箱を利用して小さなビオトープができました。毎日「めだかちゃん、おはよう」と声をかける子どもたち。ある日、大発見。メダカしか入っていないのによく見るとタニシがくっついていました。「どこから来たのか」「雀が持ってきたんじゃないか」などと盛り上がっています。

子どもたちの会話は想像力があり、とっても楽しいのです。



子育てメッセージ

「見てね～」
「うん、見てるよ！」

子どもは、お父さんやお母さんに、いつでも自分を見てほしいもの。でも、忙しい毎日、子どもの「見てね～」という言葉について、「今は、忙しいの」と言ってしまうがちです。

「うん、見てるよ！」と言葉を返すだけで、子どもは安心するのです。

全国私立保育園連盟
子育てメッセージより

